

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400397		
法人名	社会福祉法人 赤碕福祉会		
事業所名	グループホーム あかさき		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町赤碕1062-4		
自己評価作成日	平成23年2月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢化に伴い、個々のペースに合わせ、利用者の健康管理や転倒防止に努めている。かかりつけ医、家族、専門職、専門医と連携を深めた支援に取り組んでいる。住み慣れた地域で馴染みの方や地域の方と交流し、張り合いや喜びのある生活が出来るよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成23年2月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

赤碕福祉会の中にあるグループホームで、国道9号線沿いの利便の良い場所だが、少し入っただけで周辺は静かな環境である。ホームの前や後に畑があり、自然に囲まれ視界がのびやかである。最高年齢96歳、最少年齢88歳であるが、皆さんお元気で、歩行、食事、いずれの場面を見てもそのお元気さは驚くものがある。ひとえに職員の寄り添ったきめ細やかな支援の賜物と思える。入居者一人ひとりが心身ともに健やかであることが、このホームの一番優れている点と感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での安心した生活、馴染みの場所、馴染みの人との関係性の支援を理念に掲げ、毎朝ミーティングで唱和し確認し合っている。また月例目標に掲げて実践に繋げている。	事業所としての基本理念・基本方針を作成し、事務所とホーム内にも掲示し、毎朝ミーティング時に唱和し共有している。具体的な月例目標も掲げて、実践に繋げる取り組みをされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(祭り、文化祭、洋ラン展、小学校の生活発表会、中学校運動会)に参加したり、地元の店へ買い物に行き馴染みの方と交流している。地域の方が野菜や花を持ってきて下さる。野兔を頂き、飼育している。	地域の行事に参加し、地元の商店や鮮魚店に買い物に行き、日常的に交流がなされている。自然な日常の交流を大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なし		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。利用者の健康面、専門職との連携、外出支援の取り組み状況、家族アンケート、防災、転倒防止、相互研修等についてメンバーから質問、意見、要望、アイデアを頂きケアやサービスに反映するよう努めている。	2ヶ月に1回開催されており、ホームでの様子を介護事故も含めオープンな報告がなされ、記録も詳細に残し職員間で共有されている。地域代表の方よりアイデアもよく頂いておられる。また、玄関に会議録が置かれ、家族や地域の方に開示されている。	会議のテーマを設定し、そのテーマに沿って出席者を検討し参加者の工夫をしてみられると、更に多様な意見が得られ今後の運営へ参考になると思います。また災害時の協力体制についても、会議を通して近隣の方への発信を続けられることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に委員として参加して頂いている。介護保険法第23条に関わる実地指導の受診、指導をうけている。秋祭りの行事に参加して頂き関係を深めている。	運営推進会議への出席の他にも、法人内の行事に参加して頂いたり、随時相談にのって頂いたり協力関係はできており、町内の福祉に関する情報提供も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度、身体拘束廃止検討委員会に参加している。自分たちのケアを振り返り、気づきを報告し改善に繋げている。他部署の事例も参考に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内に身体拘束廃止検討委員会があり、研修が行われ、それに基づきケアがなされている。玄関は施錠されておらず、チャイムによる気付きと、見守り、寄り添うケアで事故防止に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署内研修を実施している。認知症介護研究・研修センターの「施設における高齢者虐待防止学習テキスト」を使用し、意識を高め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内研修を実施している。面会者や家族にも活用して頂ける用にパンフレットを玄関に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に説明を行っている。十分な話し合いの時間を取り利用料金や起こりうるリスク等不安や疑問を伺いながら、理解し納得していただきながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に毎月開催している「ひまわり会」で意見、要望を伺っている。面会時には、日常の様子を報告すると共に意見要望を伺っている。アンケートを行い、意見を運営に反映するよう取り組んでいる。意見箱やノートを玄関に設置している。	利用者が司会をし全員で日々の思いを話し合う「ひまわり会」で意見や要望を聞き出し、会議録として残されている。出された意見や要望は、随時、日常生活の中で具現化されている。また家族からの職員の名前が分かりづらいという意見にも早急に対応し、また利用者の意見も反映され大きく見やすく柔軟に対応されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや 毎月の部署会などで気付きや意見を発する場がある。意見や気付き、を取り入れながら日々の業務に反映させている。年2回の個別面談時にも意見要望を聞く機会を設けている。	職員からは、日々の業務の改善課題について等よく意見が出されている。毎月部署会が開催され、年2回は個別面談もあり、意見を聴く機会とされている。外出についても職員との話し合いで、定時から利用者の希望する随時への対応と改善されていった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員育成の取り組みとして苑内外の研修に積極的に参加させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修(毎月1回)、外部研修への参加、職員間での伝達研修等職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し研修会に参加している。相互研修を行い活動を通じてサービスの質の向上へ繋げるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人に会い、生活状態を把握するよう努めている。また、本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、今までのサービス利用状況等これまでの経緯についてじっくりと聞くようにしている。家族が求めていることをじっくり聞き、その上で事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の思いや本人の実情を確認しニーズを探り改善に向けた支援を行うように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事に目を向け、生活の中で活かされる場面作りや役割作りをする事で私たちの知らない事を教えてもらう機会を得ながら生活している。またそのような場面を多く持つように工夫や声掛けに気をつけている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の出来事や気付きの情報を伝える事で共に支えあう関係作りに努めている。3ヶ月に1度手紙や写真での近況を伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみの行き着けの理美容院へのつながりの継続を支援している。地元のスーパーや馴染みの鮮魚店へ買い物に出かけ、馴染みの方との継続的な支援に努めている。墓参りや実家へ出掛けたりし繋がりを継続できるようにしている。	地域では馴染みの鮮魚店が訪問販売に来てくださる。家の近所の理美容院の利用の支援や、墓参りや今まで住んでいた家などにも外出支援がされている。地域のスーパーに買い物に出掛けることで馴染みの方と出会えることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員間で連携し情報共有し把握に努めている。役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。その時々感情や心身の状態で変化する事がある為職員が調整役として支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者や退去された方の家族の訪問があった際には、ゆっくりとお茶を飲みながら話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者のつぶやきや表情を見逃さず、思いを汲み取るようにしている。	一人ひとりの表情やつぶやきを見逃さないように心掛け、把握した情報はノートに記録し共有している。思いやつぶやきを引き出すように、職員はゆったりと丁寧に関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの方から情報を聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し共に過ごす事で、出来る事に注目し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で掴んだ本人の思いや、家族や知人から伺った意見を取り入れながら反映させるようにしている。月に1度モニタリング、カンファレンスを行って現状に即したプランを作成している。	本人、家族の意見を取り入れた計画が作成され、毎月モニタリングをし、カンファレンスで話し合わせ、細かな修正が随時毎月のようにされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のサービス計画チェック表を作成し、生活状況、ケアの実践結果、気づきなどを記入している。個別記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療等24時間医療機関との連携を取りながら家族も宿泊し付き添い看取りを行った。受診や買い物だけでなく外出支援に力を入れており、利用者の思いを汲み取りながら支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小、中学校から運動会や生活発表会など招待され応援に出掛けたり、公民館から洋らん展等催しに招待され、地域の馴染みの方々と過ごしたりした。馴染みの鮮魚店も立ち寄ってくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。必要に応じて専門医を受診している。	本人、家族の希望するかかりつけ医になっており受診支援もしている。近隣の診療所からの往診もあり、皮膚科、歯科、眼科等、専門医による診療が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診、往診時に日々の生活状況や健康状況が記録してあるチェック表を確認して頂きながら、報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにして行きたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアについて家族に話をし、希望があれば支援していく方針である。終末期のありかたについて医師、家族と連携を取り、家族の気持ちや本人の思いに注意を払いながら対応に努めた。	家族、本人の希望や協力があれば最後まで支援していく方針である。これまでも、一昨年、昨年とホームでお二人のターミナルケアをした。状態が変化する都度話し合いを重ねている。重度化した場合、法人として契約したPT・STとの連携のもと支援している。部署会で勉強会も重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命訓練を受講し修了書を交付されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て日中、夜間を想定し避難訓練を実施している。消火器の使い方や煙体験訓練も行った。夜勤に入る前には避難経路、火災報知機、消火設備の使用方や設置位置を再確認し、迅速な対応に繋げるよう努めている。	年4回の避難訓練(夜間想定が3回)が実施されている。備蓄もあり、避難経路等の確認も常時行なわれている。近隣地区の消防団と協定も結ばれたが、近隣の住民とは日中不在の家が多く、まだ協力体制は築かれていない状況である。	併設する特養の協力もあるが、夜間はそれでも人手が少ないため、地域の協力は不可欠と思います。運営推進会議等を通して協力体制が確立していけることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部署内研修にてプライバシー保護マニュアルの読み合わせを行い周知している。身体拘束廃止検討委員会の取り組みとしても力を入れている。苑内研修でも学ぶ機会を設けて全職員が学べる機会を作っている。	部署内・法人内研修を通して、全職員が人権意識を高めている。実際にも、言葉かけや接し方など誇りやプライバシーを損ねない関わりがなされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶タイムの時、メニューを見て頂きながらその時々好みの飲み物を選んで頂いているなど、自己決定が出来るように工夫しながらケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その時々希望を聞き入れてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの理美容店で希望に合わせたカットをしている方、化粧水や乳液を使用している方、好みの洋服やパジャマを買いに出掛ける方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひまわり会や関わりの中で聞き出した希望のメニューを献立に取り入れるよう、相談しながら決めている。畑で採れた様々な野菜を収穫し、料理に使っている。盛り付け、片付け、も一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルで食事している。	利用者の好物については聞き取りが度々行われていて、皆が食べたいものが提供されている。職員も全員が同じものを同席して食べており、会話が弾み楽しい雰囲気であった。役割も個々に応じて支援されていた。外食の楽しみも提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方は個人記録表を活用し、かかりつけ医と連携を取りながら対応した。好みの飲み物や食べ物を提供したりと工夫した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。個々に合わせ声かけ、見守り、介助を行っている。週2回ポリドントをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握しながら案内を行いトイレでの排泄に取り組んでいる。オシメ使用の方でもポータブル案内する事で排便できるよう取り組んでいる。	自立支援に取り組んでいる。おむつ使用の方にもポータブルトイレに案内する等、個別に対応し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	炊飯時、麦を入れている。ヨーグルトを1日1回食後に食べて頂いている。毎食1品以上茸(きのこ)を取り入れている。水分摂取量の少ない方は好みの飲み物など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者にその日の希望を聞きながら入って頂いている。	入浴は拒否される方も多いが、個別に工夫して3日毎には入浴できるよう支援されている。入浴した日を忘れ拒否される方には、居室のカレンダーにシールを貼ったり、本人にメモを書いてもらったりと工夫し、定期的に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握している。寝付けない時には、温かい飲み物を飲んで頂きながら、ゆっくり話を聞いたりしている。日中しっかりと活動出来るように関わるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケースに綴り、効能や副作用について理解出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり準備、茶碗拭き、洗濯干し、洗濯たみ、生け花等個々の役割として支援している。らっきょう、梅干し、干し柿、金山寺味噌作り等教えて頂きながら作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添い散歩、買い物、ドライブに出掛けるよう支援している。姪に会いたい時、実家に行きたい時、同級生に会いたい時など支援している。家族の協力を得ながら息子や弟の家へ遊びに行かされている。	散歩や買い物、ドライブなど、希望に沿って随時の支援がされている。先日は名和公園に冬桜を観に行かれていた。個別にきめ細やかな支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は職員が行っているが、レジで支払う際に渡して支払って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたい時、プライバシーに配慮し子機を使用し自室でゆっくり話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラス、畑にベンチを置いて、日光浴など出来るようにしている。廊下やホールの窓際にソファを置いて思い思いに過ごせる空間作りをしている。本人用の膝かけやクッションを使用し過ごしやすくしている。	廊下やホールにソファが置かれ、陽あたりも良く家庭的な雰囲気である。交流している小学生から送られたパッチワークのソファカバーに温かみを感じた。訪問日にはお雛飾りが出ていて、季節の花が活けられていた。また室内で飼っているウサギに癒しが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し一人で過ごしたり、仲の良い方同士くつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた品々を思い思いに飾られている。家族も新しい写真を入れ替えに来れる等本人の思いを汲んで協力されている。	3人の方のお部屋を拝見した。いずれも気持ちよく整えられていて居心地の良い空間である。利用者の身体能力に応じてタンスの配置を工夫する等、配慮されている。家族の写真や、交流している小学生が訪問した時の写真等が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士に相談しながら個々に合った福祉用具、自室の環境設備、リハビリメニュー等アドバイスして頂いている。		